修学旅行の大浴場は女湯が男湯から丸見え！上から覗いて喜ぶ男子たち

とある中学の修学旅行の夜の話。夕飯を食べ終えた生徒たちは、男子も女子も順に大浴場へと向かっていった。

男湯では、この2日間の疲れを感じさせることもなく、男子たちははしゃぎながらお風呂を楽しんでいる。楽しい時間が流れる中、翔太がふと壁際に移動した。浴槽の奥にある木の仕切り壁

の高さに違和感を覚え、軽く顔を近づけた瞬間、彼の肩が固まった。

「……みんな、声を出さずにこっちへ来てくれ。この壁、予想以上に低い」

男子たちは好奇心とわずかな予感を抱きながら壁際に集まった。仕切りは首から肩までの高さしかなく、なんと男湯から下の女湯を真上からほぼ遮蔽物なしに見下ろせる設計になっていた。健太が最初に顔を近づけ、下を覗き込んだ瞬間、彼の瞳が大きく見開かれた。

「これは……本当か……」

その呟きを合図に、他の男子も息を潜めて壁際に張り付いた。ほぼ全員がの男子が壁の上から覗いて下の光景を凝視した。

彼らの視界には、女湯が、絶景が広がっていた。女子たちはまだ何も気づかず、語り合いながら笑顔で湯に浸かってたり、身体を洗ったり歩いたりしている。